

令和 4 年度版

病 院 年 報

第 47 卷



越谷市立病院

— smile, safety, satisfaction —

令和4年度病院年報発刊にあたって

院長 丸 木 親

新型コロナ感染症が下火となり、ようやく日常の診療が取り戻せるのかと思っていたが、病床稼働率は低迷を続けている。諸経費の値上げもあり、病院長としては胃が痛くなるような毎が続いている。なぜ病床稼働が上がらないのかと考えると、やはり疾患構造の変容によって、使いきれない小児科や産科などのベッドがあること、これを埋める方策がないことである。この病院の構造は残念ながら古く、ベッド数ばかりが多く、使い勝手が悪い。最近の在院日数短縮、外来化学療法、日帰り手術などの普及で、ベッド数を少なくし、回転をうまく上げて行くことが望まれるが、病院の人員配置や設備は稼働病床数を基本としている以上、これをなんとか当面利用して行かなくてはならない。どのような医療ニーズが増えるのか？現在、85歳以上の超高齢者の著しい増加が問題となっている。例として、要介護者に占める超高齢者の割合は2002年に40%であったのが2021年は55%に、年間死亡者に占める超高齢者の割合は2025年には50%、2060年には75%になると言われているデータもある。死亡年齢は2020年で男性88才、女性93才である。超高齢者は、入院になる原因となった傷病以外に脱水、低栄養、認知症、フレイルなどの問題を抱えている。このような患者には退院後の生活復帰を意識して、治らない慢性疾患の維持管理を含めて在院中、いや入院直後から退院後のADLを考慮した治療の場を提供しなければならない。在宅などとの後方連携はますます必要となるだろう。働き方改革の影響もあり、当院の人員では超急性期救急の応諾が平日時間内以外は難しくなっているが、このような超高齢者に対する介入はもう少し出来るのではないだろうか。大学病院の専門医として育ってきた多くの当院の勤務医は、自分はそんな患者を診るためにここに来たのではない（それならいつでも超救急は診られるのですか？）と当然思うだろうが、このような救急患者は逃さないでとることが市中病院では望まれるということ、大学や後輩に向けても発信して行くべきである。フレイルも診られる専門医でなければ市中

病院では通用しない。慢性心不全の患者は急性虚血性心疾患の6倍、外科的介入の必要ない脳梗塞はくも膜下出血の10倍以上、フレイルによる整形外科領域の転倒骨折、神経内科変性疾患、誤嚥性肺炎なども増加傾向である。とりあえずは当院に入院加療し、地域のそして多職種に連携で後方に繋ぐというシステムやスタッフを養成してゆくことが地域密着型の当院に課せられたこれからの使命であると思う。

病 院 の 理 念

私たちは地域の健康を守るため最良の医療を志向し、自治体病院の使命である地域における行政、医療機関、介護施設等との連携、地域に必要とされる医療の公平、公正な実施、地域の健全な発展への貢献を果たすため、次のことを実践します。

－ smile , safety , satisfaction －

○私たちは病院の使命を自覚し、患者様のニーズに応える医療を提供します。

○私たちは医療の向上に努め、生命の尊厳を重視し安全な医療を提供します。

○私たちは患者様の視点に立ち、患者様が満足できる医療を提供します。

平成14年4月1日制定

令和5年2月1日改定

基 本 方 針

- 1) 救急医療を充実させ、地域住民の求める医療に積極的に応えます。
- 2) 医療連携を積極的に推進し、地域に根ざした医療を展開します。
- 3) 安全な医療を旨とし、医療の質・患者サービスの向上を図ります。
- 4) 確かな技術で、高度な医療を展開します。
- 5) 職員は使命感と誇りを持ち、責任ある医療を実践します。
- 6) 安定した経営基盤を確立し、限りある医療資源を有効に活用します。
- 7) 「患者の権利と責務」を遵守し、患者様との信頼関係に結ばれた医療の提供を目指します。

平成19年4月1日制定

平成30年4月1日改定

令和5年2月1日改定

目 次

第1章 概 要

(1) 病院の概要	1
(2) 病院の沿革	3
(3) 届出に関する事項	13
(4) 配置図等	17
(5) 病院機構図	19
(6) 施設の概要	21
(7) 主要医療機器等一覧	23

第2章 令和4年度業務

第1節 管理業務

(1) 職員に関する事	26
(2) 財務に関する事	28
(3) 業務の委託	36
(4) 光熱水費の状況	38

第2節 病院業務

(1) 患者数調べ	39
(2) 診療報酬に関する事	44
(3) 院内死亡数及び解剖数	45
(4) 臨床検査科業務	46
(5) 薬剤科業務	49
(6) 栄養科業務	53
(7) 放射線科業務	55
(8) 内視鏡室業務	61
(9) 中央手術室業務	62
(10) リハビリテーション科業務	63
(11) 臨床工学科業務	66
(12) 人間ドック集計	67
(13) 看護部業務	69
(14) 緩和ケア業務	73

第3章 研究業務

(1) 学会等における研究発表及び講演	74
(2) 著書及び論文発表	79

(3) 令和4年度ガス・メス納め集会より		
1) 麻酔科	麻酔科・中央手術室手術統計	81
2) 循環器科	循環器科年次報告	82
3) 外科	外科手術統計	83
4) 整形外科	整形外科手術統計	84
5) 脳神経外科	脳神経外科手術統計	86
6) 泌尿器科	泌尿器科手術統計	87
7) 産科・婦人科	産科・婦人科手術・分娩統計	88
8) 眼科	眼科手術統計	89
9) 耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科手術統計	90
10) 小児科	小児科入院統計	91
11) 臨床検査科・病理診断科	病理・細胞診・解剖統計	92
案内図		94